

温古知新³⁸ 菜根譚 10 1

笑顔礼讃西東

椋俳句会・小雀の会 (埼玉県・飯能市) 2 3

佐々木英子 (神奈川県・相模原市) 4

投稿作品 5 8

心に残った作品 9

詠み人スクランブル

(いまでも心に残っている昔話・民話は何ですか?) 10 11

新潟ぶらり / 新潟市マンガの家 12

いがた文化の記憶館便り(6) 13

食案句案のすすめ(6) 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」歌人盛田志保子 16

2-3
February-March
Vol.84

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミュージック・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇ニュース



心穏やかに一步引く、そんな教訓を教えてください。前回に引き続き、今回は38項よりご紹介いたします。

魔を降すには、先ず自らの心を降す。心伏すれば、則ち群魔退き眺う。横なるを馭するに、先ず此の気を馭す。気平かなれば、則ち外横も侵さず。

(魔を降伏させるなら、まず自分の心を降伏させなければならぬ。煩惱や妄想を制御できれば、魔性は引き下がるだろう。また、横暴なものを制御するなら、まず自分の心の横暴な気を制御すること。気持ち平らかにすれば、外的な横暴は自分に進入することはない。) 何事にも、毅然とした態度で平静であることが大事なのですね。

弟子を教うるは閨女を養うが如し。最も出入を厳しくし、交遊を謹むを要す。若し一たび匪人に接近せば、是れ清浄の田中に一の不浄の種子を下すなり。便ち終身、嘉禾を植え難し。(弟子を教える時は、箱入り娘を養育するのと同じ。人の出入りを厳しく監督し、交友関係

を慎重に選ばせねばならない。もし、一度でも素行の悪い者に近づけば、綺麗な田畑に不浄な種を撒くようなもの。一生、良い苗を植えることはできない。)

教育の際は、人や環境等厳しく管理する必要があるようです。また、自分も模範にならねばなりません。

欲路上の事は、其の便を楽しみて姑くも染指をなすこと母れ。一たび染指せば、便ち深く万仞に入らん。理路上の事は、其の難を憚りて、稍かも退歩を為すこと母れ。一たび退歩せば、便ち遠く千山を隔てん。

(欲望に絡んだことは、いくら楽しくてもそれに染まってはならない。もし一度でも染まってしまうと、奈落の底に落ちてしまうだろう。道理に関していえば、いかに難しいからといっても、そこから後ずさりしてはならない。もし一度でも後ずさりしてしまえば、道理は山々の彼方に離れて届かなくなってしまうだろう。)

欲望に負けず、道理を貫くことこそ、より良い人生を送れるのでしょう。難しくても、逃げたいけませんね。

難しいことや、楽しいからと言って欲望に負けないこと、そして平静な心持でいることが大切ということでしょう。逃げずにいることは簡単ではないですが、目指す気持ちは大事ですね。(古川久美子)

椋俳句会小雀の会

代表 石田郷子様

(埼玉県・飯能市)

昨年12月12日、埼玉県飯能市名栗で行われた小雀の会の吟行句会にお邪魔しました。

小雀の会は椋俳句会(2004年創立 代表石田郷子)の勉強会の一つで、毎月吟行会を重ねている。10時半、参加者が飯能駅に集合すると、迎えにきたのは名栗温泉「大松閣」のバス。駅から入間川に沿う形でバスに揺られること約45分。旅館のお食事処「山の茶屋」に到着すると、皆さん昼食前の寸暇を惜しんで句材さがしへと。どんなモノヤこと、森羅万象が本日の俳句に仕立てられるのか！。

吟行をしながら、澄みきった青空の中を石田代表のお宅「山雀亭」までそぞろ歩き。

「山雀亭」では、大勢の狸と、どなたかが置いていったのであろう野菜たちが出迎えてくれる。暖かい部屋に入り、



▶山里名栗に移住して6年の代表石田郷子さん



ほっとしながら、本番に向け息と句を整えていく。

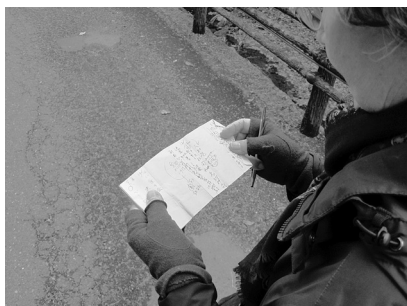
◎以下、まずは代表の特選4句より
ふりむけば真顔なりけり十二月 節子
はつとするような意外性があり、十二月に適っている。ただ類句が心配。

実南天未だ拓けぬ道の上に 青嶺
あの道を見て、よくまとめたと思う。大人っぽい言い方をしてなかなかカッコいい(笑)。

ほんのくぼあたりにさざんくわの気配 節子
よくわからなかったが、「さざんくわ



▲山をのぼる派 くだる派とも盛んに手帖に書きつける



▲「あれ…何の足跡かしら？」



▲ほっこりした気分になる「山雀亭」玄関先

の気配」がいい。ひらがなの「さざんくわ」が、気配や存在を感じさせるのだと思う。

言の葉のみな誤れる冬の滝 あかり

冬の滝を見て、自分の中でいろんな言葉を言ってみても何か違っている、と感じている作者。みな誤れるがおもしろいし、類句はないだろうと。

◎代表選、互選の句

静かさをかこめる空や冬木立 せきれい
木立ではなく、空が閉んでいるので

少し変わっていると思ったが、冬の静けさがでている。正確な表現ではないと思うので、少しなおした方がいい。

ピザ釜の小さき煙突クリスマス佳代子
ピザ釜がいい。クリスマスらしさがでている。

木守を守るものなき夕かな あかり
くつきりと木守柿の情景が映像として見えてくる。

鳴きたつる犬を遠聞く昼炬燵 ユキ
渋い句。今時代劇にはまっているが、そんな雰囲気句(笑)。遠聞くがいい。

山茶花の蕾硬くて指に力 青嶺

下五の字余りがおもしろかった。青嶺くんはこの作り方でいい。触れてみたときの新鮮な感じが伝わる。

故郷へ帰る話も小六月 こでまり
十二月ではなく小六月として上手にまとめた。情感のある優しい句。



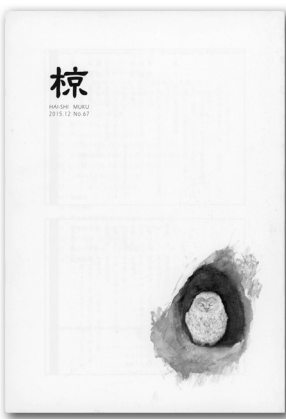
▲句材として大活躍したワンちゃん

まばたきで応ふる犬や冬董 佳代子
今日見たのは犬だったけど、猫の方がいいな(笑)。

つぶりたる臉のずれや冬日向 あかり
繊細な句だが、「冬日向」がすわりすぎて特選に仕上がった。

枯菊の這ひて地球にずつとある 節子
枯菊の、枯れているのにいつまでも生きていく感じを「ずつといる」とした表現のおもしろさ。

幹に棘あり中空に冬木の芽 英一
パツパツと対象を絞っていくようでかっこいい句だが、中空がどうも気に食わなかった(笑)。



▶俳誌「桐」「表現を高め合うための場」としてあり続けることを目指す」と標榜

葉牡丹の触れば応ふ固さかな 青嶺
文法上は「応ふる」としなればいけないが、作り方としていい句。触ってみたら、固くて押し返してくる感じをよくつかんでいる。

耳奥にサラダくづるる冬景色 節子
囁んでいる音だと思いが「野菜」というわけにはいかないから「サラダ」でいい感じに。冬景色が効いている。

冬蝶と見えしは微風かも知れぬ せきれい
冬蝶の命のはかなさのようなものを風であらわしたところがいい。ちよつとさどりもあるが、この句の場合はいい。

◎互選句
樽をつぐ誰れを厭ふといふでなく 英一
これは見落としてしまった(笑)。よく、気持ちを含んでいて味わいのある句。

川音を築の音と聴く十二月 こでまり
まとも過ぎたかな。確かにきれいな音だったが「築の音と聴く」が少しきどつている。

山茶花やいくたび訪へば通ふとふ あかり
幾たび訪へば通ふといえるのか、ということだと思ふ。つかんだことを言おうとしているのはわかるが「通ふとふ」がつまっている。もうひと工夫。

畝せまる庭の端まで蒲団干す 英一
説明した割にはわからない。畝の上に蒲団を干すくらいまでのいい方がで

きると、畝がそこまで追ってきている景が見える。

手のひらの包む冬菊日の匂ひ 佳代子
優しい句。手のひらので触感でできているから「日の匂ひ」だと少しずれる。一つのもので詠んだ方がいい。

山茶花や少し離れてふり返る せきれい

山茶花の感じはあるが、細見綾子の「鶏頭を三尺離れもの思ふ」の句もある。少し歩いて振り返る、ということだと思ふが「少し離れて」だと、後ずさりしているみたいで振り返ると合わなくなる。

春慶の塗膳数多神の旅 こでまり
塗膳と神の旅とはあつているが、数多だと言ひ過ぎかな。ここに塗膳が5つあるが「春慶の塗膳五つ神の旅」の方がおもしろい。



▲神奈川から片道3時間かけてきた方も

◎石田代表(雀さん)の句
集会所サントアの服の脱いである鉛筆を落して拾ふ冬日かな
少しづつ降りて来たれる冬日かな
茶の花のほろりほろりや独り言
真ん中に蜜柑の艶の置かれけり



▲つややかな蜜柑とつややかな感性の皆さま

★ご自身の句が選ばれると「はい」と元氣よく応える代表の石田さん。先生然としたところが全くなく、山雀亭の在りようも人となりもオープンで実に自然体。「○○さんの句としてはこっちがいいね」と一人ひとりをよく見ての指導は、その個性を曲げることなく伸びやかに育てる。

ちょうど1月に藤井あかりさんが「封緘」で第39回俳人協会新人賞を受賞した。「桐」誌にある「樹花清々」の言葉どおり、何も言わないうい木の木だけれど、今後ますます様々な人やものが自然と集まってくるのがわかる。(木戸敦子)

佐々木英子様

(神奈川県・相模原市)

句集『楳円銀河』

毎月お手伝いしている俳句の結社誌「かまつか」の副主宰であり、昨年8月に句集『楳円銀河』を上梓した佐々木英子さまにお話を聞きました。

◎ 俳句との出会いから

昭和29年、結核で入院した慈恵第三病院のこと。ある日、男性患者が「俳句の先生が来られるので一緒にいかがですか？」と勧誘に来られ、「遠慮します」と辞退したが、翌月には同室の女性と句会に顔を出していた。当時の入院といえば大体が結核か肺病。その男性患者は「かまつか」のメンバーで、立川病院に入院していた同じ「かまつか」同人の成田凡十先生がわざわざ教えに来ておられたのだ。凡十先生の魅力と「俳句はおおらかな書き方でいいんだよ」という言葉に後押しされ、月1回の病室句会を心待ちにするように。



▲白髪も実にお似合いの佐々木英子さま

◎ 以来、ずっと俳句を？

退院後は、復職、結婚、退職、子育てと忙しい日々。10年程は休みがちであったが、メンバー同士のつながりがあったこと、初代主宰・金子麒麟草先生が「辞めるのはいつでも辞められる、できるときに出しなさい」と言ってくれたことで、細々と続けることができた。銀座の松屋デパートに復職してからは、文芸部をつくり、重役の方も引き込んで夕方5時半に閉店してから句会を開催。勤務中に一覧表をつくったり、そんなおらかな時代だった(笑)。

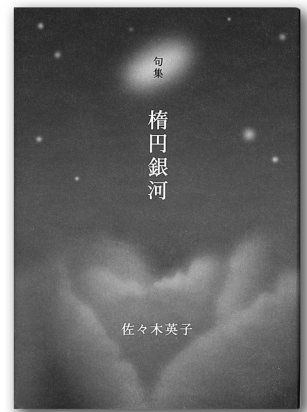
◎ お生まれは浅草とか？

薬局を営む父と、5年前98歳で亡くなった母、2人の姉と妹、そして私の6人家族。住まいは旅館がひしめく街のそばで、民生委員をしていた父がよく「お金はあとでいいから」と葉をあげていた姿を覚えている。昭和20年3月の東京大空襲で家を失い仙台の秋保に児童集団疎開、10月の父の死去に間に合わなかった。今も宝塚や演劇、歌舞伎が好きなのは、父が時々、国際劇場など芝居を見に連れていつてくれた影響かと思っている。

◎ まさに江戸っ子ですね

のどかだったが、私には田舎がない。笑われるかもしれないが、しじみはしじみ屋さんが、毎週決まった日に持ってくるものだと思っていた(笑)。だからなのか、職場結婚した盛岡出身の夫は、川があれば手づかみで魚をとるような人で、「何でもできてすごい！」と思っちゃった(笑)。穏やかで健康な人だった

◀第二句集『楳円銀河』各章のタイトルには隅田川にかかる橋「白髪」「言問」「吾妻」「駒形」の名前を冠した



のに、去年亡くなった。私も平成23年に右の腎臓を切除したので「癌夫婦ね」と、笑い合っていたのに。

◎ 今は俳句中心の生活ですか

神奈川県が設置し、日本赤十字社が指定管理者として運営している視覚障害者を支援する施設「神奈川県ライトセンター」で録音ボランティアをしていたことがきっかけで、俳句クラブの活動を手伝い始めて20年余。2000回記念には普通標記とその点訳とが一冊になった第三回合同句集『花桐』を発行。現在、視覚障がい者は20人、晴眼者は10人だが、会場の定員が30人なので希望者には待つこともっている。

視障者の大半は中途視障者で、各人各様見え方が違う。一人ひとりが厳しい過去をお持ちで、いくつもの目の病気を抱えている。そういう意味で結末がかたいし、月1回の句会といっても、月毎の担当者に俳句を送って、パソコンで打って、句稿の音訳・点訳・テープダビング、発送…と裏方業務も多種多様。そこは「ねえ、やらない？」と点訳

部会員や録音部会員にも声をかけて、協力者を増やしているの。

◎ これからは？

自分の俳句は、締切りがあるから何とかひねり出している状態。今回の句集も、読み返してみると、こんな俳句出さなきゃよかった！とか(笑)。でも、視障者の皆さんの熱意はすごい。テープが届くと「あの句はここがいけなかったんですね」と、毎回すぐに電話がくる。あの熱意に動かされているし、まだまだやりたいこともある。だから病気になるていられないんです。

句集『楳円銀河』より

文科理科わたしは夢科初詣
行く秋を覗く旅なり河童淵
天命や冷えゆく母の掌月へ組む
寒オリオン腎臓一つ失うて
手鏡を揺らし梅雨蝶遊ばせる
麦秋や転んで起きて逢ひたくて

★生粋の江戸っ子だけあって、しなやかで気の風がいい。ご自身は「要するにおせっかいなのよ」とおっしゃるが、自然とみんなをリードする立場に祭り上げられる方だと感じる。周りを巻き込む力と求心力、何よりきりりとした生き方と。句集の跋文を書かれた二人の女性の文中には「遙かかなたを歩いている方」「何時も仰ぎ見る方」とあり、慕う人が多いのもうなずける。後ろ姿で魅きつけるのだ。
(木戸敦子)

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。なお、今回の投稿は、223点でした。
※しめぎり 2016年3月16日(水)まで
※作品は原稿どおりに掲載しております。

俳句



- 1 異国より帰朝の電話小鳥来る
竹本芙美子(新潟県)
- 2 白障子開いて紙燭の薄あかり
川口襄(埼玉県)
- 3 明の春齡重ねても心ちよし
大橋恒次(新潟県)
- 4 平成も二十八年雪が降る
五十嵐陸博(新潟県)
- 5 黒セーターパールとカメオ迷ひたり
吉里ひとみ(東京都)
- 6 身魂を鼓舞する老軀去年今年
有坂馨園(福島県)
- 7 草紅葉一歩一歩と試歩の道
檜山とり子(東京都)
- 8 三が日家族ごっこで過ごしをり
今井勝子(新潟県)
- 9 霰打ち楽聖の調べ乱したる
佐々木素風(新潟県)
- 10 願いごと神宿り木に託しけり
西條公雄(埼玉県)
- 11 梅擬き熟れ狙われやすくする
早乙女文子(埼玉県)
- 12 初絵馬や願力といふ重きもの
大矢知順子(神奈川県)
- 13 美術展命の響伝へけり
津田忠彦(岡山県)
- 14 文化の日壁も畳も無き新居
山崎吉晴(群馬県)
- 15 法螺貝の門付け家も年の暮
松尾らん(東京都)
- 16 花八手ははの顔して娘の帰る
井田由利子(宮城県)
- 17 曖昧な別れに残る寒さかな
川嶋法子(東京都)
- 18 被曝地の子を抱くように木守柿
佐藤正子(福島県)
- 19 初春の日の香ただよふ鳩居かな
大谷茂(埼玉県)
- 20 祖父よりも赤子が先の初湯かな
長峰正晴(千葉県)
- 21 初日の出海の千尋に夫婦岩
古川正栄(千葉県)
- 22 年暮るる若きハートのささやきぬ
黒岩正子(埼玉県)
- 23 果つる身の何時とは知らで後の月
吉村充治(埼玉県)
- 24 夕闇に連なる稲田沈みけり
吉田律子(新潟県)
- 25 木枯に耐えて一葉枝先に
水落重武(新潟県)
- 26 臘八の早暁星の煌々と
津田吾燈人(高知県)
- 27 十二月八日怒りの火葉堆し
福岡悟(東京都)
- 28 ぬばたまの夜を濃くして月水る
高崎登喜子(東京都)
- 29 寒風に負けず伸びゆく風の糸
野村牟人(東京都)
- 30 寒さ耐えなだそうそを口ずさむ
湯浅暉子(石川県)
- 31 老い二人慣れた会話の良夜かな
小泉和明(茨城県)
- 32 一湾に浮くかに富士は雪化粧
渡邊碧海(静岡県)
- 33 年嵩の其の日大事や花八手
佐野繁(静岡県)
- 34 山眠る風呂が沸いたと風呂がいう
井上静夫(栃木県)
- 35 畝一本背負う白菜猫車
菅原キイ子(宮城県)
- 36 山眠る悲しき事も夢として
林 克(福島県)
- 37 校庭の銀杏落葉を掃きし嵩
大阿久雅子(埼玉県)
- 38 幼な子の駆ける姿や寒の晴れ
青木ケン子(埼玉県)
- 39 変りなく地球廻りて大旦
近藤薫也(千葉県)
- 40 紅葉山神の絵具のありつたけ
宮宅芳子(岡山県)
- 41 冬空の皇帝ダリヤ燃え立ちぬ
清まさじ(静岡県)
- 42 くれなるの雲や水面の都鳥
小澤円梨(静岡県)
- 43 うら庭にわずかな命雪だるま
山本理香(大阪府)
- 44 枯野原北斗の風の研ぎにあふ
澤雅子(大阪府)
- 45 綿虫の湧きて重たき大気かな
津布久信雄(東京都)
- 46 からからと風を廻して冬柏
大塚徳子(埼玉県)
- 47 譲られし後は譲りて雪小径
小林七重(新潟県)
- 48 斧ふるに白息ひとつつぷりと
小島岳青(新潟県)
- 49 羅漢らは着のみ着のまま年の暮
宮崎敏昭(埼玉県)
- 50 新藁に猫がの字に眠りをり
青木涼子(埼玉県)
- 51 暮れなずむ夕日とどめし庭紅葉
杉原明子(静岡県)
- 52 寒風に駅前カッパもマフラー巻き
杉村美保子(岩手県)
- 53 ビル街の隙間を浸す冬夕焼
杉江典子(岩手県)
- 54 大砂丘日差しよるめき冴返る
田中昶(鳥取県)
- 55 「貝おほひ」捧げし社時雨けり
田野倉訓郎(東京都)
- 56 水仙の香りもうれし年の明け
鈴木みえ(長野県)



- 57 大根は大地の中で目を開く
白戸麻奈(東京都)
- 58 目の話膝の話や日向ぼし
一瀬正子(埼玉県)
- 59 散落葉露店風呂にて月見かな
宇都木安子(東京都)
- 60 旧友と銀座小路のおでん酒
古谷力(東京都)
- 61 五線譜に別れの詩や春時雨
内河邦久(東京都)
- 62 自然体踏み出す一歩大巨
堅田秀子(東京都)
- 63 お年玉いたぐまでの孫正座
大久保アヤ子(東京都)
- 64 乱舞する落葉今年を想いつつ
木村舩(山形県)
- 65 花八つ手昏れの微光の残りけり
菅原茂子(宮城県)
- 66 野良着きて句帳ポケット文化の日
湯浅芳郎(岡山県)
- 67 愛称で呼ばれ竹馬の冬の貌
浦橋渴雪(兵庫県)
- 68 虎落笛眼下の村は轟立ちぬ
岩田信(神奈川県)
- 69 まち針を打つて待ちます室の花
椋本望生(大阪府)
- 70 中吉のみくじに真顔実千両
神一男(静岡県)
- 71 降り立てば嫁の笑顔や冬すみれ
坪田勝秀(鹿児島県)
- 72 或る時は黙も美学や冬木の芽
寺内佶(埼玉県)
- 73 平凡を座右の銘に老いの春
山田楽山(埼玉県)
- 74 「ながいきできる」孫問いしお正月
中村康浩(福岡県)
- 75 初御空霊峰富士を遥拝す
羽根田明(神奈川県)
- 76 ふかし諸出されどれにも箸の穴
田中美智子(埼玉県)
- 77 落葉掃く老妻の健気の永かれと
岩村昇(神奈川県)
- 78 サンタさんババとは知らずクリスマス
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 79 炊きあがる一人の鍋や初しぐれ
岡村君枝(茨城県)
- 80 神の留守いつもの様に手を合はす
田中恵美子(山形県)
- 81 忘却と気憶のあわい師走かな
阿部幸子(宮城県)
- 82 かつこうや柱の傷のたけくらへ
森俊彦(神奈川県)
- 83 モルダウの響き懐し寒夕焼
関原幸子(東京都)
- 84 針穴の見えぬてはづし年暮るる
倉田淑子(東京都)
- 85 初雪や彼我を往き来し大地の上
緑川禎男(埼玉県)
- 86 防人の歌碑の時雨るる遠江
佐野和彦(静岡県)
- 87 宮の道朝の静寂に落葉踏む
中村和弘(愛知県)
- 88 願かけて家族元気に過ぐる年
大橋絵代(千葉県)
- 89 恙なき事に感謝の大巨
道給一恵(埼玉県)
- 90 公園のベンチわびしく鎮座して
木下精(大阪府)
- 91 建て替える老舗デパート銀杏散る
中山日出子(大阪府)
- 92 そしてねと切れぬ電話の女正月
磯部力(新潟県)
- 93 大寒の蒼天を研ぐ風の音
中嶋清子(佐賀県)
- 94 手の中に包みたくなる寒の星
村田吉雄(東京都)
- 95 年一度平穩無事を年賀状
花塚三郎(千葉県)
- 96 着ぶくれて倅せひとつふえにけり
松嶋光秋(東京都)
- 97 彼岸には曼珠沙華で悟へと
五味田幸夫(神奈川県)
- 98 暮れなずむ荒れ地に石路の灯りあり
井上氣海(広島県)
- 99 歳月は人を待たずと晦日蕎麦
田野井一夫(栃木県)
- 100 冬至湯の袖に語りし齡かな
服部八重子(東京都)
- 101 駿河甲斐跨いで眠る富士の山
松前邦広(千葉県)
- 102 伝へたき事のありけり福寿草
本庄準也(埼玉県)
- 103 横顔の母似と言われ初鏡
高杉杜詩花(北海道)
- 104 寒空にサッカー応援鳴りひびく
長谷部喜代子(大阪府)
- 105 立ち止まる齡となれり吾亦紅
邑橋節夫(兵庫県)
- 106 初夢や浄土の父母に会ひにゆく
中野勝子(鹿児島県)
- 107 鶴折りを忘れ指折り老の春
菅井文男(新潟県)
- 108 静寂の杜を壊して冬の鳥
高垣勝代(大阪府)
- 109 除夜の鐘六十路去りゆく一人鍋
沖惇子(大阪府)
- 110 霜の朝少年息を弾ませて
浅野信廣(宮城県)
- 111 里山に子等の声なし路の藁
油谷博子(兵庫県)
- 112 ろうばいや七十歳の恋心
有田俊一(埼玉県)
- 113 追羽子の音も遠くになりけり
大内泰子(東京都)
- 114 年新た何にもまして孫の声
本間ミネ(新潟県)
- 115 夢でまづ一文字書いて初日記
本間進(新潟県)
- 116 赤き実の庭にころがり初帚
増田公代(東京都)
- 117 白梅や大正男卒寿かな
宇田川正雄(埼玉県)
- 118 七草や揃わぬままの一人膳
金子範子(高知県)
- 119 精一杯微笑みかへす冬薔薇
岡野智恵子(埼玉県)
- 120 一枚の賀状で巡る旅の町
針生清(千葉県)
- 121 地に足を付けて始まる初曆
中川義彦(新潟県)
- 122 凍星に明日への力もらひけり
石川郁子(埼玉県)
- 123 ままならぬ二句一章や去年今年
小山羊子(新潟県)
- 124 帰る娘の尾灯遠のきそぞろ寒
柴田恵美子(北海道)

短歌

- 125 プラタナス葉を落して大地を守る
白松一良(千葉県)
- 126 振り返る月日一閃冬の星
井原稔子(東京都)



- 127 句と歌の入選目標達成すあとは百歳あと二十年 黒澤正行(福島県)
- 128 句を杖に八十路の春を楽しまん風に乗せくる人生讃歌
阿部徳夫(宮城県)

- 129 生き甲斐は俳句作りと卒寿まで病の床で句を作り逝く
駒場京子(神奈川県)

- 130 ひとときの光はすぐさま闇となるこれぞ釣瓶落しと言うは
土屋喜雄(山梨県)

- 131 平和への架け橋祈る虹の空孫抱き伝わる生命の重さ
合田浩子(茨城県)

- 132 一病をかかえ生きこし日々なのに癌といわれて又もおた
田中豊恵(新潟県)

- 133 妻と訪ひしパリーのイメージ壊わさるる此度のテロの惨事によりて
今井忠一(東京都)

- 134 施設よりはじめて届く友の文わけなくさみしと結びのことば
寒川靖子(香川県)

- 135 団栗を掃きて捨つるを見しわれは孫のコマにと十ヶ頂く
高須孝(愛知県)

- 136 足先の冷気に指を丸めつつ弁当つめる午前五時 若月理依子(新潟県)

- 137 冬空に富士の如くすがすがしがし九十才を踏み出すわが身
北澤実夫(東京都)

- 138 バクダツド地下に潜めるフセインの刑死詠みしがイスラム国に
早坂絃司(北海道)

- 139 七十年戦死者の無き国なれど祀る人無き兵の墓あり
久本にい地(岡山県)

- 140 もぎ取りて手に温めしからたちの実は甘き香を野に放ちたる
桑原謙一(群馬県)

- 141 吹き溜る枯れ葉の山に幼児がピョンピョンとぶのを見守りてをり
渡部美代子(山形県)

- 142 雪被り末広がり桜島の地球のかけらなり 濱崎祥子(鹿児島県)

- 143 痛む足に登る気力に筋力は笑顔で高尾の山を制覇 峯岸信子(東京都)

- 144 真つさらの墨をする手の心なし筆走りよく香り立つ部屋
大鳥居牧子(東京都)

- 145 無理せぬといいつつタクシーでくる友よ美術展などどうでもよくて
中澤寿美(神奈川県)

- 146 「差異・本質・反転・支配」「言語圏間精神衛生」「心」「自爆テロ」
安部哲(新潟県)

- 147 いちにちのおわりはつね曖昧に海風ひとときれ臓腑に落つる
北岡晃(兵庫県)

- 148 朝の陽に何あさるらん雀たち松葉につもる雪ふみ散らし
坂元正憲(東京都)

- 149 投稿を休みたるれば元気かと便り寄せり喜怒哀楽誌の友
音喜多千津子(埼玉県)

- 150 三月はいやです八十路の誕生日娘と旅すればたゞひきづられ
佐伯セツ子(香川県)

- 151 三年の任期を終えてドイツより子孫帰国の待ち遠し春
岩崎令子(大阪府)

- 152 山茶花の花のさかりを楽しみて垣根の続く街並歩む
高橋登志子(新潟県)

- 153 友からの嬉しき言の葉胸に秘む老を思わず前を向きたし
西山知子(岡山県)

- 154 初雪で車のウインドへばりつきエンジンかけてため息をつく
新井賢(埼玉県)

川柳



- 155 父母よ丈夫な体ありがとう
細川光子(栃木県)

- 156 さあ主夫の出番ですよと師走風
松田重信(埼玉県)

- 157 ピタゴラスみんな忘れて恙ない
木村洋一(新潟県)

- 158 立話したがいに誉め合い競い合い
石原岳(群馬県)

- 159 空爆も思想撃破無理だろう
原崇雄(埼玉県)
- 160 アルバムで思い出語る老い二人
守屋高雄(岩手県)
- 161 ツマ舞踊オレ詩吟会ネコ留守居
植松興悦(山形県)

- 162 アケ・オメで済ますメールの年賀状
藤沢健二(千葉県)

- 163 加齢ですこれが病名なんだって
山口千鶴子(東京都)

- 164 朝昼晩妻のうるさい処方箋
小山恵美子(大阪府)

- 165 人生は義理も不義理も踏み越えて
関本守(新潟県)

- 166 イルミネーション外人さんに紛れこむ
竹村穂夫(大阪府)

- 167 老いの身に暖冬うれしウエルカム
南喜美子(千葉県)

- 168 さむざらに枯れた蟪蛄卵のうと
奥那於子(大阪府)

- 169 我が孫は御飯味噌汁大好物
森恒雄(愛知県)

- 170 ライバルは妻かと思うそう思う
岩崎政弘(岡山県)

- 171 世帯持ち五年日記も九冊目
鈴木義雄(福島県)

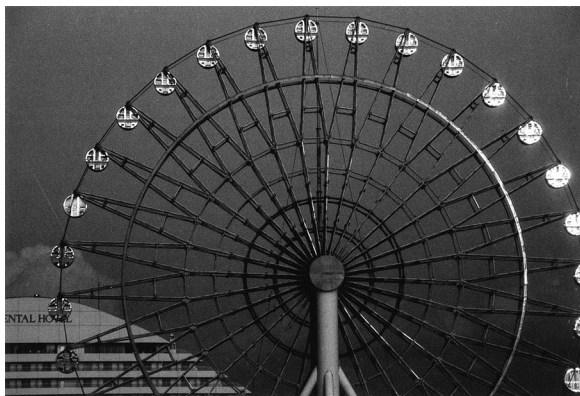
- 172 一日の元気でその日旨く活く
松田義登(福岡県)

- 173 健康と平和に尽きる願い事
目黒豊光(福島県)
- 174 近頃はネズミ怖いと逃げる猫
山崎一嘉(愛媛県)
- 175 給食のパンが見舞いに来てくれる
丸山芳夫(東京都)
- 176 強がりを書いて靴ベラ杖となり
山口静一(東京都)
- 177 今年こそ妻に優しく勇氣出せ
福地義雄(沖縄県)
- 178 もめ事は餅の形の丸と角
益永克之(福岡県)

- 179 老いゆればジュースの蓋も開けがたし
林玉子(長野県)
- 180 顔の無い戦士が蘇生する荒野
高柳閑雲(愛知県)
- 181 番号が歩いているよ未来社会
富高くにひろ(埼玉県)

フォトイック

(写真で一句)



こちらの写真を見て
詠んでいただきました。

(写真提供：伊丹三樹彦さん)

フォトイック

- 182 冬の空回るよ廻る地球の如
安木沢修風(新潟県)

- 183 冬の空廻る個室の明るくて
堀木和子(大阪府)

(写真提供：伊丹三樹彦さん)

- 184 いくら廻っても世の中見えないから止めた
鈴木岑夫(千葉県)
- 185 虹の橋乗ったらきつと行けるかも
阿部澄江(宮城県)
- 186 観覧車回る夜景や冬港
天野輝子(東京都)
- 187 カップルの天に登るや観覧車
橋本世紀男(東京都)
- 188 これからも回り続けるゆつくりと
高松秋良(群馬県)
- 189 ひと廻りする間に口説く気忙しさ
木村誠一(神奈川県)
- 190 秋日はどこからも見え観覧車
浅海和代(東京都)
- 191 高上がり下を覗くと怖くなる
和崎治人(山口県)
- 192 冬の夜や宇宙をめぐる観覧車
阿部至(埼玉県)
- 193 一回り未来の変る冬銀河
三津木俊幸(千葉県)
- 194 大空に観覧車のみ鳩よ飛べ
富樫和子(山形県)
- 195 この基礎の杭安全か不安なり
濱田イサオ(福岡県)
- 196 短日ややつと一息観覧車
片山茂子(埼玉県)
- 197 月なくも宇宙を探る展望車
千代田俳徒(東京都)
- 198 あの世へはまだ先のこと冬うらら
二瓶邦枝(埼玉県)
- 199 よく見ろよ孔雀ぢやないぞ目が知らぬ
重原昇(新潟県)
- 200 カシオペア座も小部屋に入れて観覧車
梶鴻風(北海道)
- 201 ニュートンの学説理論試験中
青木日出男(群馬県)
- 202 少子化の暗き宇宙や観覧車
有田裕子(北海道)
- 203 嫌忌の世展望開けよ年惜しむ
藤井春三(埼玉県)
- 204 大空へ声はずませて観覧車
堀田寿美子(北海道)
- 205 あのケージ君との夜を想い出す
石尾曠師朗(東京都)
- 206 寒空に炎えてる二人観覧車
居原田連星(大阪府)
- 207 幾何模様マヤアステカが甦る
近藤富夫(東京都)
- 208 わたくしの観覧車今どのあたり
中林恵子(大阪府)
- 209 観覧車だけが知つてる夜の隴
池田岬(埼玉県)
- 210 中空のどきどきしてる春の宵
齊藤安弘(神奈川県)
- 211 観覧車夜は星座に仲間入り
増本和子(大阪府)
- 212 かんらん車見上げて過ぐる年の暮
星一子(神奈川県)
- 213 老の眼に観覧車にも孔雀にも
鏡たか子(山形県)
- 214 動くとも見えず四日の観覧車
大窪美代子(大阪府)
- 215 観覧車輪ものせて速まわり
笠間澄子(北海道)
- 216 高所恐怖降りてほつとす観覧車
村山徳英(埼玉県)
- 217 観覧車師走の空に夢乗せて
鈴木蝶次(宮城県)

- 218 要介護ゴンドラ乗せて喜々とする
北野耕兵(千葉県)
- 219 ドキドキ、ワクワク、少し心配?
萬濃その子(神奈川県)
- 220 数学は苦手なんだよ山眠る
杉浦俊雄(静岡県)
- 221 空に舞う幸せ一つポクのもの
長谷川庄二郎(千葉県)
- 222 オリオンに届かぬ落差夜の秋
倉沢ひとみ(静岡県)
- 223 登りつめ恋の告白観覧車
勝田久美(大阪府)

●俳句・川柳募集!!



(写真提供：中川 肇さん)

右の写真から、自由にイメージし17文字(俳句か川柳で表現してください。1枚の写真から想起される世界は無限大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニークなイック(一句)をお待ちしております!



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました!その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

◎短歌部門大賞
19 何もかもなげて散歩の夫といて先には逝けぬと我が身をいとう
田中富恵(新潟県)



田中富恵様

・私自身が詠まれているよう。妻の言葉のようである。青木日出男(群馬県)・何をしても自分の事は後にして御主人様に合せ二人で散歩。私の主人は吾が先に行くから後から来いと自分を最後まで見届けてほしいと言った事を思い出す 大鳥居牧子(東京都)他

【自句自解】

選んで下さった方に感謝申し上げます。物忘れの多くなった夫をショート・ステイに頼み、内視鏡に依る早期食道癌の摘出の為新大病院へ入院、九日間で退院、C型肝炎の持病もあり年中薬は離せませんが元気で。散歩が好きで元氣な夫の後を追いつながら、此の人を置いて逝つては若い人達が大変と真剣に思った時の心境でした。

◎川柳部門大賞

28 盗聴はお構いなしの糸電話
丸山芳夫(東京都)



丸山芳夫様

・盗聴やオレオレ詐欺のほか電話は色々あるが糸電話での句は思わず感心した 大久保アヤ子(東京都)・盗聴と糸電

話との妙 高柳閑雲(愛知県) 他

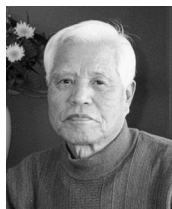
【自句自解】

この句の出来たいきさつを。
①小学校の理科の時間に作った「糸電話」。実際に通話してみると「音が糸を伝わる」というより「音が漏れて聞こえる」のだった。
②ケータイの前身の、持ち運びの出来る受話器が出始めた頃、「『コードなし』なんて信じられない。言葉が空中を飛び交うのでは…。盗聴されて当り前だな」と感じた。

以上二点を句にしました。微笑ましい光景を思い浮かべて頂ければ幸いです。

◎俳句部門大賞

127 昭和史を丸ごと生きて敗戦日
野木宗信(奈良県)



野木宗信様

・作者は平寿に近い年齢、激動の昭和を生きて今尚健康で俳句を楽しまれています。大先輩として尊敬 山崎吉晴(群馬県)・昭和史はまさに終戦日(敗戦日)の記録 津布久信雄(東京都)他

【自句自解】

幼少時代は満州事変、小学生時代は日支戦争、中学時代は第二次世界大戦と昭和二十年八月まで十七年間戦時下と呼ばれ、十九才になった途端に軍隊に召集。私もお國の為と戦地に送られ一命を捧げ、「欲しがりません、勝つまでは」の標語におどらされた。

敗戦国の苦しみをこらえながら日本再建へと国民全体で築き上げた現在の日本

本は世界に誇るべき智能と勤勉さを持っている。現在八十有余才であるが、苦勞して築き上げた事実は賞めてやりたい。

◎フォトイック部門大賞

180 将来の美人の片鱗秋日和
井原穂子(東京都)



井原穂子様



・写真と句がぴったり一致 木村洋一(新潟県)・なるほど!! 頷くうまい一句、想像が広がる姿 重原昇(新潟県)・雰囲気が漂っている 杉浦俊雄(静岡県) 他

【自句自解】

うしろ姿の可愛らしさに引かれた。ふり返つてちょっとお顔を見せてーテンブルちゃん(古い古い)ウエーブのかかった髪、どんなに可愛らしいお顔かしら?見えないだけによけいにこれから大きくなつて、どんな絶世の美女になるのかと想像をたくましくする。幼い日はひと時の夢!このままの姿で居て欲しいけど、時は流れ…。美人の大女優になるのでしようか?その日を楽しみに!

《短歌》

13 憲法の九条解釈けち付ける与党の頭の中を知りたい
濱田イサオ(福岡県)

・九条は世界に誇れるもの 黒澤正行(福島県) 他

20 教え子の訃報が届く年の暮れ賀状書く手のとどこほりつつ
坂元正憲(東京都)

・喪中ハガキ、我が家も年々増して来て冥福を祈る時が多くなりました 音喜多千津子(埼玉県) 他

《川柳》

26 終活にまだ鮮やかな夢を見る
木村洋一(新潟県)

・終活を自分の人生の一ステップにしたところが良いですね 長谷川庄二郎(千葉県) 他

49 年重ね声は大きく耳遠く
福地義雄(沖縄県)

・大正琴、コーラスで老人ホームに慰問していますが耳が遠くなった人が多いようです。 杉村美保子(岩手県) 他

《俳句》

97 賀状書く独り善がりの句を添えて
阿部徳夫(宮城県)

・思い当たる、はずみころ。つたなくとも、これが、今のわたしの詩心とつづやいて。 中村康浩(福岡県) 他

104 山裾に夕日を羽織るそばの花
田中昶(鳥取県)

・白と紅の対比の景が見える長野の美しい自然がよく詠まれていると思う 佐々木崇嗣(新潟県) 他

《フォトイック》

210 パリの秋小ちやな靴音石畳
梶鴻風(北海道)

・パリの秋の雰囲気にふさわしい 阿部至(埼玉県) 他

215 おしえてママほんとうのパパどこのひと
北野耕平(千葉県)

・ヘアースタイルからの発想。おもしろい 有田裕子(北海道) 他


※今後ふるってご投稿をお願いいたします!

A Q U E S T I O N N A I R E

前回のアンケート

Q. いまでも心に残っている
昔話・民話は何ですか？

※紙幅の関係上、すべての
お答えを掲載できません
んことをお詫び申し上
げます。



★日本の昔話・物語

・桃太郎

母親がよく読んでくれて覚えていた昔話です
岡山の桃太郎伝説。一説によれば桃太郎は正義の味方ではなく鬼(善人の金持ち)の宝物を強奪した盗賊だったとか
松田重信(埼玉県)
桃太郎が家来と共に鬼を退治する正義感が好きです。自分の持っているそれぞれの武器(能力)で鬼退治をして桃太郎を助けて恩に報いる事は正義に通じ現代社会にも通ずる

松前邦広(千葉県)

しかし最後の最後はカットされているとか
本庄準也(埼玉県)他

・浦島太郎

浦島太郎のようなへアスタイルにした魚の一匹となり、主役の二人をかいまみていたような…
早坂紘司(北海道)

中村康浩(福岡県)

助けた亀のお礼に竜宮城でもらった玉手箱は何だったのだろうか
桑原謙一(群馬県)

亀に乗って龍宮城へ行きたかった

中林恵子(大阪府)他

・うさぎとかめ

何気無く人生訓になっていた様な気がする
小泉和明(茨城県)
歌もすぐ出てくるし人生の教訓になっている
片山茂子(埼玉県)他

・かぐや姫

美しくせつなく壮大な話にひかれま
す
富士市には「かぐや姫」と富士山に係る民話があります
渡邊碧海(静岡県)他

・かさ地蔵

雪の中に寒そうに立つじぞうにかさをかぶせてあげるやさしいおじいさんの姿が印象的
関原幸子(東京都)
勤務先の老人ホームでもクリスマス会に職員で劇を行って喜んで頂きました
沖惇子(大阪府)他

・鶴の恩返し

「絶対見ないで」は「絶対見たい」もの
奥那那子(大阪府)
日本の自然界と人のつながりがうまく表現されています。舞台もTVでも印象に残っている民話の一つです
中村和弘(愛知県)他



・かちかち山

人に悪いことをしないように考えさせられた
井上氣海(広島県)
わるいたぬきでも薪を背負わせ火をつけてやけど、泥舟にのせて溺死させるのが子供心にかわいそうに思えた
岩崎令子(大阪府)他

・泣いた赤鬼

山形県に作者の記念館があるそうで行くのが夢だったので…
山口千鶴子(東京都)
人を見た目だけで判断しない。自己を捨てた友情に感涙
津田忠彦(岡山県)他

津田忠彦(岡山県)他



・花咲か爺さん

年少の頃初めて買ってもらった絵本の中にあり、よく母が読んでくれた
鈴木みえ(長野県)

鈴木みえ(長野県)

・雪女

ここほれワンワンが好き
田中豊恵(新潟県)他
都下青梅市の調布橋のたもとに「雪女縁の地」との石碑があったという。郷里の近くに残る民話です
吉村充治(埼玉県)

吉村充治(埼玉県)

越の里魚沼が故郷。雪国の懐かしい物語が多く少年の頃は時折想い、夢を見ました
村山徳英(埼玉県)他

・舌切雀

良い行いをすれば幸せになると結果はわかっている安心して何度も読んでもらった
高崎登喜子(東京都)
わがままで意地悪な子供だった私に祖母が良く聞かせてくれました
大内泰子(東京都)

・一寸法師

一寸法師のサクセス・ストーリー
阿部 至(埼玉県)、高松秋良(群馬県)他



・さるかに合戦

三津木俊幸(千葉県)、坪田勝秀(鹿児島県)、濱田イサオ(福岡県)、津布久信雄(東京都)他

・今昔物語

原崇雄(埼玉県)、岩村昇(神奈川県)

・山椒太夫

息子が老母に再会できたのが救いです
大阿久雅子(埼玉県)
こんな恐ろしいことがあるのかと子供心に胸がつぶれそうになった
有島和子(東京都)他

・二宮尊徳

昔の軍国時代の育ち乍ら二宮金次郎の話が心にひびいています
檜山とり子(東京都)他

A Q U E S T I O N N A I R E

・その他
おむすびころりん

堅田秀子(東京都)
キツネに化かされた話 とつても怖くて夜道を歩くのが恐ろしかった。今でもふる里の山道を歩くとふと思いで出し怖いと思います

山崎吉晴(群馬県)
タヌキのあづき洗い 大きな家のうらを流れるくろい川で夕方になるとシヤラタと音を立てて流れています、水の流れがそう聞こえるからでしょう……こわや 佐伯セツ子(香川県)
へつたれよめご 菅原キイ子(宮城県)
「浜爺」の話、さらって行ってしまおうと 重原昇(新潟県)

風の又三郎 宮沢賢治
浦橋克行(兵庫県)
瘤とりじいさん 寺内侖(埼玉県)
三枚のおふだ 何度聞いてもハラハラ、ドキドキしました
若月理依子(新潟県)

姥捨山の話 高杉杜詩花(北海道)
耳なし芳一のはなし 最近テープで聞いて語り手があまりに上手なので、恐いやら可哀相やらで夜に聞くのはやめました。でも初めて読んだ時の感動は忘れません
中山日出子(大阪府)

「節分の豆のはじまり」は印象に残りました
五味田幸夫(栃木県)
地蔵さまと爺婆 北野耕兵(千葉県)
文福茶釜 家の近くには猪(むしむ) タヌキが住んでいます。本間ミネ(新潟県)
もちもちの木 中野勝子(鹿児島県)
番町皿屋敷 鏡たか子(山形県)

手ぶくろを買いに 真冬の寒さの中ほのぼのと温もりです
大橋絵代(千葉県)

浅茅が宿 至純の愛というには悲しすぎますが霊となつても夫を待っていた妻。夫も妻も哀れです
増本和子(大阪府)

一休さん 増田公代(東京都)
牛若丸 父から寝物語に。今も絵馬が近くのお宮にあります(ちなみに「義経になつた男」を読書中)
南喜美子(千葉県)他

★海外の昔話

父の書棚にあつた本を勝手に読んでいた。今の世にも通じる教示本
益永克之(福岡県)、居原田連星(大阪府)

・その他

ひみつの花園 吉田律子(新潟県)
フランダースの犬 木村舂(山形県)
マッチ売りの少女
阿部澄江(宮城県)、松田義登(福岡県)
人魚姫 山本理香(大阪府)
赤ずきんちゃん 油谷博子(兵庫県)
三国志 野村牟人(東京都)
白雪姫 細川光子(栃木県)

★郷土民話

遠野物語
「おしらさま」小学生、中学生も語り部として活躍しています。
杉村美保子(岩手県)
明治29年の大津波で亡くなった妻が

同じく死んだ男(彼女の初恋の人)と霧の夜の浜辺を並んで歩いていたらとろを夫が見たという話
浅野信廣(宮城県)他

座敷わらし
友人(ロス在住の米人)と共に感心。彼らは私達のすべてをお見通し
千代田俳徒(東京都)他

・その他

在原業平と杜若姫の恋物語のお寺とかきつばた(愛知県知立市の昔話)
森恒雄(愛知県)
ローカルな民話で「ヤマプロウバサ(弥三郎婆?)」この話で夜更しを禁められた
小林七重(新潟県)
故郷(熊本)の「河童伝説」今でも尻を取られる思いである
福岡悟(東京都)

佐渡に伝わる「乙和池」干ばつを救う雨乞い伝説です。水落重式(新潟県)
十二支が出来たときの福島の民話。百才の母から聞きました。
大久保アヤ子(東京都)

三十年案内語り部をしていましたから知多半島反対側の半田のランプやごんぎつねなど山々あります。
高須孝(愛知県)

替女さんを「メグラ」と方言で言う。これを幼い頃の夜、部落の老若集めて民話を聴く「樫の木白狼」靡げな記憶の蘇る
藤井春三(埼玉県)

屋久島に伝わる「山姫女(やまひめじょ)」平家の落人が山奥に住み浜下りの折、タイコ、三味線を弾きながら塩くみに山を下り、会つた人の魂をとるといふ話
濱崎祥子(鹿児島県)

兵庫県新温泉町海上の「蛇抜け伝説」大蛇が現れて村人が食べられるので高僧から教えられたもぐさ人形で退治した。大暴れの大蛇は高所から深い溪谷へなだれ落ちた。そのため周囲の山々が崩れ、海(湖?)は埋もれ、大きい集落ができた。
邑橋節夫(兵庫県)

「月の卯(うさぎ)」 梶鴻風(北海道)
うそついたら針千本のますと云ふ
青木ケン子(埼玉県)

おおかみのまつげ 白戸麻奈(東京都)
狐にだまされた村人がずい分歩いた筈なのに朝気がついたら同じところをまわつていたという夜遊びを戒める祖母の話
松尾らん(東京都)

今から五十四年前、東京へ就職する私に母が云つた「他人様の御飯にはトゲがあるから気を付けなさい!!」
井上静夫(栃木県)

人魂の出る所 浅海和代(東京都)
「蛇ばあ」田舎で蝮をつかまえて生活をしていた人です。リング箱麻袋一升瓶に酒づけになっていました。怖いもの見たさでよく行きました。
黒岩正子(埼玉県)

安達ヶ原の鬼婆と富山の置薬屋さんを混ぜた親の創作話、恐ろしい話ですが終りは「オチ」がありました。
菅井文男(新潟県)

小泉八雲の階段。ものすごく恐いのになぜか何度も母にせがんで話してもらつた。萬濃その子(神奈川県)
しのぶ山の「ごんぼ狐のはなし」
佐藤正子(福島県)

12月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！

皆様のご感想、はげまし、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」がつくられていきます。

- ・「菜根譚」普通に生活のなかで心していなければならないことなのに、人間どうしても素直になれず我を張りたくなります。気をつけなければ。古川さんのまとめいいですね。
- ・都市中央句会の活気ある句会の様子にこちらまで闘志がわいて来るようです！
- ・俳句初学の私にとって句会訪問はとてもタメになります。句会の雰囲気が目には浮かび、時には笑い声さえ聞こえて来るような気がします。
- ・阿部久美子さんのお話に興味を持ちました。メンタルトレーナーという職業を初めて知りました。
- ・投稿作品定数 300 のうち投稿が 230。減ったわけは？（→純減です。どしどしご投稿ください!）
- ・フォトイック。一枚の写真でこんなにも多くの世界が想像されるとは！
- ・アンケートのコーナーは「予想以上」の感。今回の「鍋」は読むだけで食べた感あり。
- ・パリの露谷虹児、挿絵画家として名を馳せていたのは生活のためとは…。思う存分筆を使って描いていたらどんなだったろう。
- ・食楽句楽のラーメン。新潟まで食べに行く事は出来ませんが、最もスタンダードのラーメンを二杯くらい食べたいです。
- ・リレーエッセイの錦見映理子さんが筆を措かれるのは残念。風景が目には浮かぶ描写を堪能しました。
- ・いつもシオリ、ハガキありがとうございます。短歌人少なく残念です。
- ・川柳の句会をぜひとり上げていただきたい。
- ・ことしの「掉尾」にふさわしく12月号、とても「読みで」がありました。

※今号へのお声も、ぜひお寄せください。

新潟ぶらり

★新潟市マンガの家

漫画はいまや一つの文化として、海外の人気も高い。新潟出身の漫画家は多く、人口比で突出している。マンガの家は、その名のごとく漫画に関する文化施設。新潟のマンガ・アニメ文化を次世代に継承・発展・発信することを目的に、二〇一三年にオープンした。

二つのエリアがあり、一階は赤塚不二夫をはじめとする新潟ゆかりの漫画家のパネル展示と、その作品を楽しむコーナーが常設されている。

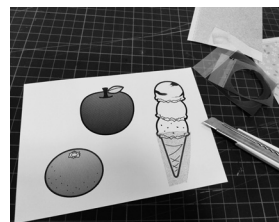


▲顔はパネル。自分の顔をした「おそ松くん(6つ子)」が見える…

二階の「マンガのたまごゾーン」では、初心者向けのマンガ講座が開催されている。予約不要、しかも無料で、気軽に体験できる。講座内容は九種類。「つけペン講座」「カケアミ&点描講座」「男の子・女の子キャラを描いてみよう講座」など、漫画を描くにあたって基礎となる技術にふれられる。

「はじめてのトーン講座」に参加してみた。トーンとは、模様や点が印刷されているシール状の画材（スクリーントーン）のこと。トーンを見るのも触るのも初めてで、講師スタッフの丁寧な説明がありがたい。好きなトーンを選び、

絵柄に合わせてカッターで切り取り貼り付ける…だけのことなのだが神経を使う。少し慣れて楽しくなってきたところで、完成！



▲点が一定に配置されているものは、向きに注意。カッターを強く入れると土台まで切れてしまう。

最近では、トーンの部分はデジタルで制作する漫画家も出てきたという。しかしペンの部分は手描きだ。漫画家の仕事に密着する番組「浦沢直樹の漫勉（NHK Eテレ）」でみた、鍛錬された美しい線を思い出した。職人なのだ。マンガ講座の参加者は、漫画を描いてみたい、漫画家になりたいという少女が多いそう。新潟が全国有数の漫画家輩出県である背景として天候（雪）をイメージする人は多いが、触発させる環境もあるかと思う。

「マンガの部屋」には、新潟ゆかりの漫画家の作品が所蔵されている。ソファに身体を沈め、世界に没頭している人たち。漫画家の精魂こめられた線が、いま、その人に届いている。（菅真理子）



新潟市中央区古町通6番町
971-7
TEL 025-201-8923
(11～19時) 水曜休館

佐渡の兄弟

秋岡 啓子

新潟市から約45km西方にある佐渡島は、日本最大の離島です。面積は東京23区の約1・4倍。豊かな自然に恵まれ、近年では金銀山の世界遺産登録を目指した運動が活発になっています。またトキの自然繁殖や、「佐渡おけさ」でも広く知られます。

遠流の地・佐渡は日蓮上人や世阿弥、順徳天皇などが流され、江戸の文化だけでなく上方文化の影響も強く受けました。明治9(1876)年、新潟県と合併しましたが、島は独自の文化を育んできました。本稿では明治時代、佐渡に生まれ、近代日本で活躍した三組の兄弟をご紹介します。

【土田麦僊と土田杏村】

土田麦僊(1887~1936年、本名金二)は新穂に生まれました。僧侶として身を立てるため京都に送られました。画家への志を断ちがたく出奔。竹内栖鳳に師事しました。明治から昭和初期にかけて日本画の革新を目指し「国画創作協会」を創設。「写実の美と装飾の美との渾然融和」を理想として、そのモデルを豪華絢爛たる桃山時代の美の世界に見出そうとしました。

その「国画創作協会」の綱領を起草したのが弟の杏村(1891~1934年、本名茂)です。新潟師範学校、東京高等師範学校を経て京都帝国大学哲学科に進み、西田幾多郎に学びました。信濃自由大学を開校した自由大学運動の提唱者でもあります。



▲土田杏村

▲土田麦僊

【北一輝と北吟吉】

2・26事件の理論的指導者とみなされた思想家・北一輝(1883~1937年、本名輝次郎)は、両津の旧家に長男として生まれました。佐渡中学では飛び級するなど秀才として知られましたが、やがて文学や社会主義に傾倒し、退学して上京。当時は危険思想とされた基本的人権や、言論の自由、男女平等などの北の主張は、戦後の占領政策で実現されました。

弟の吟吉(1885~1961年)は、兄の思想について「佐渡には民権思想と並んで、尊王思想がある」と、故郷との関係を指摘しています。吟吉は佐渡中学から早稲田大に進み、ハーバード大などで哲学を研究。帰国後、政界に転進。帝国美術学校(現武蔵野美大)、多摩美術専門学校(現多摩美大)を創立しました。

【山本悌二郎と有田八郎】

山本悌二郎(1870~1937年)は真野の漢方医の次男として生まれました。佐渡の漢学者・圓山溟北の塾で学んだ後上京。ドイツに留学し農政学、経済学を学びました。台湾製糖の設立に参画し、農林大臣を2度務めました。漢詩と書に造詣が深く、中国書画の収集でも知られています。

2歳のとき有田家の養子となった弟・八郎(1884~1965年)は戦前、外務大臣を4度歴任。日独伊軍事同盟には山本五十六らとともに締結阻止を主張する平和主義者でした。1961年、三島由紀夫の『宴のあと』に私生活を無断で書かれたと訴え、日本で初めて「プライバシーの権利」が認められる裁判となりました。この新しい思想を紹介したのは、同郷の憲法学者・久保田きぬ子でした。



▲山本悌二郎

【企画展示情報】

【パリの落谷虹児】

●開催中~2016年2月14日(日)

【佐渡の兄弟】

●2月27日(土)~4月17日(日) 3/20(日) 関連イベントあり

・休館日…月曜日、祝日の場合は翌日

・お問い合わせは TEL 025(250)7171



▲北一輝

「食楽旬楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽旬楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

鶯もちの初鳴き

岩田 桂

鶯餅は春の季語です。その鶯餅を娘が買ってくれました。いかにも早春らしい和菓子です。本物の鶯を飼ったことはないが、おそらくこんな色をしているのだなあ、と決めつけました。

頬張ってみると素晴らしい味です。牛皮はなんともいえない弾力があり、心地よい歯ごたえです。中の餡子も甘過ぎず、思わずホーホケキョと鳴きたくなります。男だつて糖質人間がいるのですよ。元横綱の大乃国さんもその仲間です。さらに有名な俳句もあります。

魔がさして鶯餅を二個も食ふ 伊藤白潮

さて今回はこの餅菓子について、男もすなる餅菓子談義と参りましょう。

二月に入ると和菓子屋さんの店先は、さまざまな色に色づき始めます。まるで婚期を迎えた娘さんのようです。赤い座布団の椅子、色とりどりのお品書き札や暖簾が、早春の風に遠慮がちに、はためきながら春の訪れを告げます。あてやかな日本の春到来の色です。

まずは鶯餅が一番手として店先に登場します。これを鶯の初鳴きと言います。青緑色のお餅の中に餡をつつみ、まわりを黄な粉でまぶし、両端をつまんでとがらせ、色かたちを鶯に似せたものです。

秀吉の弟、秀長がお茶会を開き、秀吉をもてなすために作らせたお菓子を、秀吉がたいそう気に入って、「うぐいす餅」と名付けたそうです。花見が好きな太閤さんならではのネーミングです。

この鶯餅を手の平にのせると、その黄な粉がばら

ばらとこぼれます。

鶯も真似て鶯餅の粉こぼす

やおら指でつまんで口に近づけると、ほのかな春の匂いがしてきます。ただ春の匂いと言つても、イメージの世界の表現であつて、甘いとか酸っぱいなどの匂いではありません。

和菓子は季節の匂いや情緒や郷愁で味わうものなのです。

そんなことを考えながら、粉をこぼさないようにして鶯餅をいただきます。

ひとかじりすると中のアンコがするつと舌の上に挨拶に出てきます。

「私はどこどこ生まれのウグイスです！」と、まずは口上を述べたもう感じます。

続いて父の名は誰々、母の名は誰々とまではいかないが、由緒能書きがさらにこの鶯餅を美味しくさせてくれます。この口上が実に我らを楽しませてくれます。

鶯餅父母呼ぶ声もおのづから

ところで貴方はこの鶯餅を何口で食べますか。大方の人はだいたい二口か三口です。もちろん何口で食べるのが礼儀等とは、決まりはありません。五口でも六口でも構いません。なかには一口で丸ごとパクリとする人もいます。まるで鶯を丸のみする蛇みたいな食べ方を好む人もいます。

早速、ボクも真似てみました。丸ごと一個を口に迎えると、最初、黄な粉の匂いが口中に広がります。息がむせ返ります。そのあとゆるゆると噛みしめてゆくと、ねっとりとした餡子が顔を出し、渾然一体となった状態となります。この感覚が野生じみてたまらない。おお、この感覚が丸ごとパクリ感なのか。

しかし何も丸ごと急いで食べることもないのではないかと、食べ終えた後の感想です。喉を詰まらせたらどないするのか。ハイ、ハイと鶯にお詫びしなれば……やはり二口か三口がいい。



食べ終えたら、口のまわりに付いた粉を拭き払います。渋めのお茶で一度は描いた甘き夢の心を元に正します。そして「今年の鶯は少々声が硬いなあ！」などと評すれば、もう和菓子の通となります。

うれしやな鶯餅の丸かじり

それにしても、鶯をまず季節菓子の一番手に登場させた、和菓子界の先人達の知恵はお見事、おみごとです。鶯は「春告鳥」とも言われ、まさにボくらが待ち焦がれる季語だからです。和菓子季語の関係は、だれも邪魔することはできない日本の文化です。

この季語を尊ぶ和菓子側は、鶯餅以後、椿餅、桜餅、蓬餅、柏餅、水羊羹へと季節を追いながら連続技を繰り出して、我々を楽しくしてくれます。各々の持ち時間は二週間と業界が自主規制しています(なるほど)。

「和菓子には、日本の森羅万象が凝縮されている」とは、ある茶人の言です。それだけでも日本という国のすばらしさが心に染み渡ります。

さらに和菓子の「色、かたち、匂い、音、風味」は、ボクらの五感のすべてを刺激してくれます。そしてどこかに置き忘れてきた、日本の大切なモノを思い起こさせてくれます。その大切なモノとは、「スローライフ」そのものです。

スローな和菓子、いい響きです。

スローな時間、心地よい人生です。

スローな恋、たしかな歩みです。

スローに老いていく人生、理想的な生き方です。

スピードや効率化が万能の時代に於いて、この鶯餅を食べる時ぐらいいは、金儲けや老後の話は止めましょう。人生の喜怒哀楽をひとまず横に置いていただきましょうよ。そうだ、そうだよ、それがいい。高齢社会はこうでなくっちゃあ。和菓子には「日本の匂を味わう」豊かな人生が宿ります。

うぐいす餅喜怒哀楽を横におき

オリジナルポストカード「春」一新しました!

昨年の秋、前回の冬バージョンと作品を一新した当社のボタニカルアートのポストカード。続いての春バージョンも新登場し、春の訪れが待ち遠しくなるような花々が咲きそろいました。

今回同封したのはネモフィラ。花色は青空のようなブルーのほか、白や黒に近い濃紫などあり、満開時には株を覆うくらいの花を付けます。ぜひ、お友だちへのプレゼントに、春待ち便りにと、ご活用ください。

ご希望される方は、同封のチラシの「ご注文書」にご記入のうえ、**必要金額分の切手を同封のうえ、封書にてお申込みください。(1組8枚入り500円)**

※ボタニカルアート…植物の姿を正確で細密に描く、植物図鑑のための絵画のこと。



ゼラニウム、ニオイスマレ、サクラソウ、ムスカリ、クサイチゴ、ネモフィラ、アリッサム、ハナニラ

「やまびこ通り」に親子の句碑!

弊社で2冊の句集『ト音記号』と『父母の遺伝子』を発行した新潟市出身の中野博夫さんが、新潟県阿賀野市 五頭山の山腹に約5kmにわたって続く「やまびこ通り」に句碑を建立した。

松尾芭蕉の「奥の細道」をヒントに作られたこの通りは、250基余りの句碑、歌碑が並び、入口には出湯温泉、出口は村杉温泉、その中間には今板温泉の五頭温泉郷があり、近くには白鳥の飛来で有名な瓢湖もある。新潟県の著名な俳人、歌人の句碑、歌碑から、田中角栄、相馬御風らの歌碑、中村草田男、高野素十、石塚友二、佐藤念腹らの句碑、横山蒼鳳の書、水島新司の作品と幅広く、山道の両側に隙のないほど林立している。

約50に分かれた石碑群のNo.39に建つ中野氏の句碑。もともとそこには氏の亡き父、中野弘一さんの「雲負ひ石負ひ百万年後は冬海の貝」の句碑が立ち、新たな句碑を建てる余地はなかったが、その一面にある休憩用ベンチを他に移し、建立の許可を得たという。

建立した句碑「理由ありてこの道を行くなめくぢら」の後の銘板には「この句碑を父の句碑の直ぐ傍に建て、息子の俳句をたしなむを知らぬまま逝きし父母に捧ぐ」と記されている。やはり親子、つながっているのである。



2015年12月5日▶句碑建立

スタッフの一言

Q. いまでも心に残っている昔話・民話は何ですか?

※新年初日に行われる「書初め」でしたためた文字を掲げて

木戸敦子



真っ先に思い浮かぶのは「泣いた赤鬼」。パブロフの犬の唾液が涙になったように、読むと必ず青鬼の置手紙のところで滂沱の涙。今もその後の青鬼の幸せを願わずにはいられません。

古川久美子



昔話というのか……? 「蜘蛛の糸」のお話をきいてから、蜘蛛の巣は壊すまいと誓ってまいりました(笑)。あとは、なんだか知らないけれど「ラプンツェル」が好きらしい。

菅真理子



子ども人形劇でみた「牛方と山姥」。談笑していた美しい女性が一瞬にして恐ろしい山姥に変わり、牛方を食べようと追ってくる。目は金色、口は耳まで裂けたあの形相、怖すぎます(涙)

山田千秋



今季節に思い出すのは「てぶくろを買いに」です。間違っ出てしまったこぎつねの手に対するお店のおじさんの対応にころが暖まります。

木伏美恵



一寸法師。お椀の船、針の糶、針の刀に憧れました。シンデレラも好きだった。子どもの頃の絵本はほとんど残っていて、今では自分の子どもが読んでいます。本っていいですねー!

上村真智子



「へっこきの名人と太鼓たたきの名人が音の大きさを競うのですが、最後に川の中に入るとボロボロボロポロとへっこきの名人が勝つ」というお話を子供の頃父が寝る前にしてくれた。

金子ゆり子



昔からの絵本で「ピノキオ」「一寸法師」「金太郎」「桃太郎」「かぐや姫」と読んでいました。その中で一番残っているものというものは無く、みんな楽しかったという印象です。

石山由希子



「桃太郎」のきびだんご。イヌ、サル、キジが思わず家来になってしまうという不思議な食べ物。きびだんご1つ…鬼ヶ島から帰ったらもっと貰えたのかな。鬼も食べたかったかもなあ。

吉田瞳



子供達がお腹を抱えて笑う昔話「へっこきあねさ」。各地方の方言で読み聞かせするとおもしろくツボらしい。単純な内容だが奥深いところが好き。そして、昔放映した「日本むかし話」という番組が大好きだったな～



最近朝ドラ「あさがきた」の主題歌を歌ってAKB48になりきってます! 4歳5カ月



短歌の効用

盛田志保子

はじめまして。短歌を作り始めて18年くらいになります。なにかあればその都度、なんとなく人生の出来事は歌に反映されてきました。ゆううつな時期、歌を作ることが楽しくて仕方がなかった時期、なんにもうまくいかなかった時期、苦し紛れでもなんとか、月に十首を作り、所属する結社に投稿してきました。それで最近思うことは、自分というものはあまり変わらないということです。いや、もうほとんど変わりません。進歩どころか1ミリも同じ場所から動いていないんじゃないかとさえ思われます。案外頑固なものです。

子育てを通して、自分の時間がなくなってしまう、と思うことはありました。結婚をして、自分のふるさととは距離を置かなくてはならないのではないかと、思うことはありました。しかし、ひとたび短歌を作り出せば、あの、ちょっとやそつとじゃびくともしならしい、困りものなつかしい自分の世界がありました。それから四季は、やはりそんな自分と同じくらい頑固に、四つの季節を繰り返し続けています。そのことも歌を作ることの心強い支えになっています。

なんて言いつつ、わたしの歌は相変わらず独りよがりなことが多く、読む人には不親切で、わかりにくいらしいのです。何年たっても歌会ではうなだれています。

いい短歌、と思うものには、なにかが「詰まっている」と感じます。「詰まっている」と感じられる短歌を、わたしは「いい短歌」だと思おうのです。字数は同じはずなのに、この「詰まっている」感じはなんだろう。多すぎもせず、足りなくもない。

歌人9人目の書き手は、2〜6月号を担当してくださる盛田志保子さん。前回までの著者、錦見さん曰く「天才的な文才の持ち主。若手歌人には彼女の大ファンも多いです」とのこと。待遠しい半年です。

ちようどよいはずなのに、ぴったりであればあるほど、表面張力のようにわずかに盛り上がって見えるのです。そして、ああ、とため息が出ます。

しみじみと見つめてあればただ一つすぐに我に光る星
あり 五島美代子

つきぬけて虚しき空と思ふとき燃え殻のごとき雪が落
ちくる 安永 藩子

てのひらをくぼめて待てば青空の見えぬ傷より花こぼれ
来る 大西 民子

これらの歌をわたしがずっと覚えてるのは、どこかで自分にも同じ経験があると思っているからでしょう。今、並べてみて驚いたのですが、この三首はおもしろいほど似ています。たぶんわたしはこういうことに身に覚えがあるのです。人間同士に限らず、思いを飛ばし、思いが返ってくる、そんな経験です。そして、ああこれ知っている、と感動します。わたしだけじゃないんだと、うれしくなるのです。

それ以上でも以下でもないのです。なにか密度の濃いものが、三十一文字を使い切り、三十一文字を生かし切り、最後はそんなものも忘れ、ただぎゅうっと詰まってそこに在る。このような短歌と出会う瞬間、わたしは「ああ」と心から思います。とにかく好きな歌には「あああ」と思うだけなのです。

こんな短歌が作れたらなあ！という思いを捨てきれず、いつか、いつか、と思いつながら、わたしは今日もわけのわからない歌を作っています。

2016. 2. vol.84 (2016年2月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

編集後記

今回が初の「喜怒哀楽」継続更新の号となりました。この冊子のために多くの方が郵便局に足を運び、ご入金くださったかと思うと、よしっ!と自然と張り切る気持ちになります。なくてもなら困らないものだけれど、あることによって多少なりともお一人おひとりの気持ちが潤ったり、いい気分になったらこれ幸い!と思っています。先日聞いた男性脳と女性脳の違いでは、男性はお気に入り「内緒」に、女性は「口コミ」すること。特に男性の皆さま!本誌をご紹介賜れば幸いです。今号の表紙は待春の気持ちを表す菜の花イエロー。冬を味わい尽くして迎えたいものです。(木戸敦子)